

---

令和6年度 北海道公立学校教頭会 第3ブロック研修会

## 活動・研修状況報告

---

期日：令和6年11月1日（金）

函館市中学校教頭会

# 函館市中学校教頭会



# 函館市中学校教頭会

## ○ 研修部

- (1) 教育経営課題の研究に関する  
こと
- (2) 教頭の職能向上に関する  
こと
- (3) 道公立学校教頭会研究に  
関すること

## ○ 調査対策部

- (1) 教育記録・指導要録等の研究  
と作成に関する  
こと
- (2) 教育関係調査の企画と実施に  
関すること
- (3) 学籍に関する  
こと

## ○ 法制部

- (1) 法制研究に関する  
こと
- (2) 教育予算、施設、設備に  
関すること
- (3) 職員のサービスに  
関すること

## ○ 厚生部

- (1) 福利厚生に関する  
こと
- (2) 親睦会等に関する  
こと



# 函館市中学校教頭会



# 函館市中学校教頭会

回	月 日	研修内容
1	4月6日	年間予定等
2	4月30日	実務研修 1
3	5月28日	実務研修 1 各部年間計画提案
4	6月27日	実務研修 1・レポート発表 実務研修 2（法制部）
5	7月16日	教育講演会
6	8月19日	実務研修 1・レポート発表
7	9月13日	実務研修 1・レポート発表 実務研修 2（調対部）
8	10月21日	実務研修 1・レポート発表
9	11月28日	実務研修 1・レポート発表 実務研修 2（厚生部）
10	12月13日	実務研修 1・レポート発表 実務研修 2（研修部）
11	1月31日	実務研修 1・レポート発表
12	2月21日	実務研修 1・レポート発表
13	3月7日	実務研修 1・レポート発表



# 令和6年度 研修・研究について



# 令和6年度 研修・研究について

令和6年度研究主題

## 未来を切り拓く力を育む 活力ある学校づくり

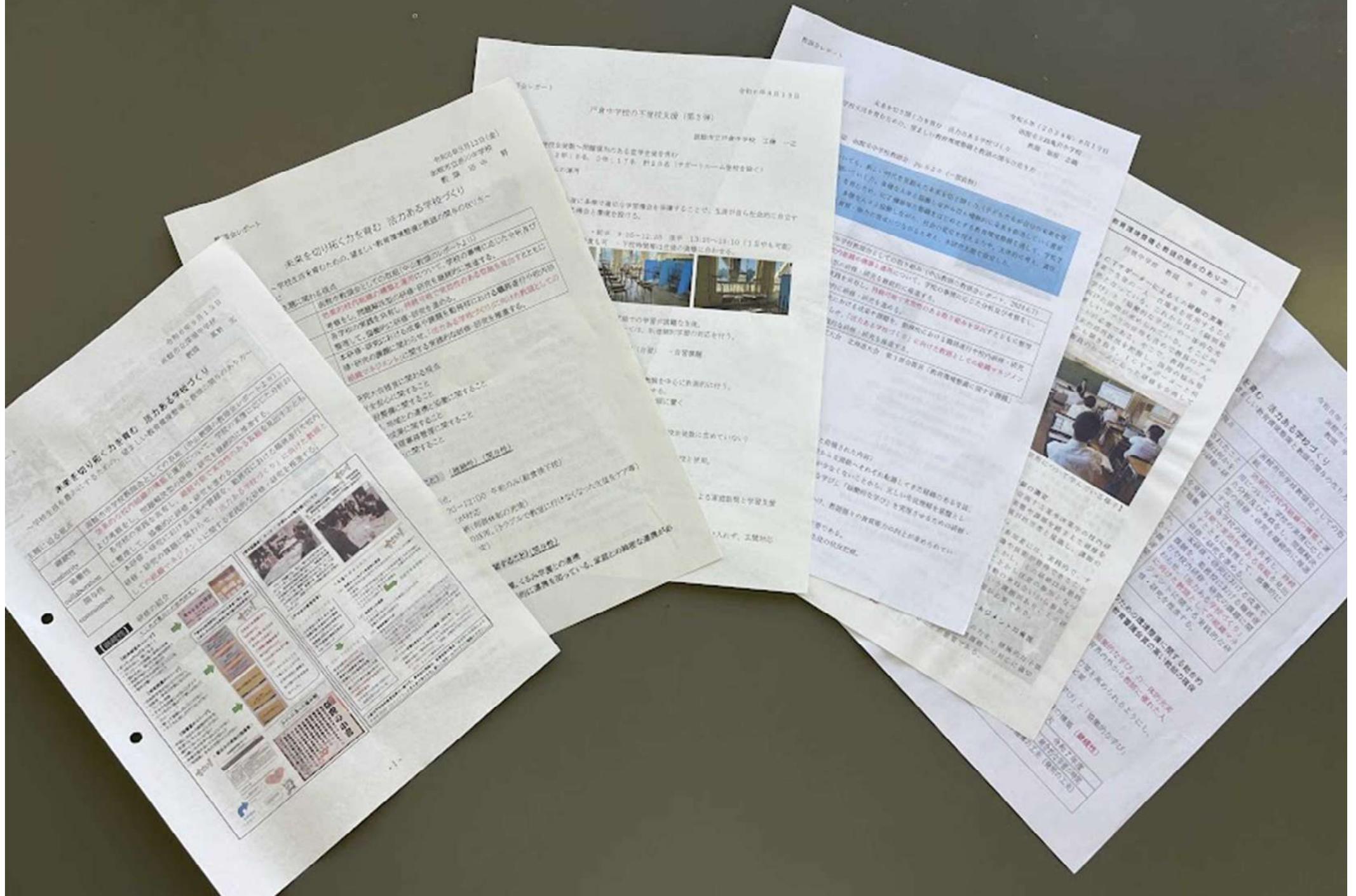
～学校生活を豊かにするための、望ましい教育環境整備と教頭の関与の在り方～



# 令和6年度 研修・研究について

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
函館市中学校教頭会としての取組概要	研究課題の把握 研究計画の構想と立案	各学校による実践研究の蓄積と検証	実践研究の検証および改善
<b>継続性</b>	効果的な校内組織の構築と運用について、学校の実情に応じて分析・考察し、問題解決型の研究を継続的に進める。		
	・各校の課題の把握	・校内組織における教頭の関与の在り方の実践研究	・実践研究結果を踏まえた検証改善
<b>協働性</b>	各学校の実践を共有し、持続可能で実効性のある取組を見出し、整理し、協働的に研修を進める。		
	・アンケート実施 ・情報交流（実態把握） ・研修	・アンケート実施 ・情報交流（成果と課題） ・研修	・アンケート実施 ・情報交流（検証および改善） ・研修
<b>関与性</b>	成果や課題を、自校の職務遂行や校内研修の課題に関わらせ、「活力ある学校づくり」に向けた組織マネジメントに関する実践的な研究を推進する。		
	・各校における課題の共有 ・分掌、特別委員会等との連携 ・ICTサポーター等との連携	・校内組織への働きかけ ・関係機関、外部人材との連携	・校内組織体制の確立 ・持続可能な研究の推進（ICT利活用の展望）

# 令和6年度 研修・研究について



# 今後に向けて



# 今後に向けて



## 3. 教師を取り巻く環境整備の基本的な方向性

### 第3章

学校における働き方改革の更なる加速化

**一体的・総合的に推進することが必要**

### 第4章

学校の  
指導・運営体制の充実

### 第5章

教師の処遇改善

# 今後に向けて



# 今後に向けて

継続性	効果的な校内組織の構築と運用について、学校の実情に応じて分析・考察し、問題解決型の研究を継続的に進める。
協働性	各校の実践を共有し、持続可能で実効性のある取組を見出し、整理し、協働的に研修を進める。
関与性	成果や課題を、自校の職務遂行や校内研修の課題に関わらせ、「活力ある学校づくり」に向けた組織マネジメントに関する実践的な研究を推進する。



北海道公立学校教頭会 第3ブロック研修会

渡島公立学校教頭会

研究主題

未来を切り拓く力を育む

魅力ある学校づくり

-教職員の資質向上や

職務意識の効用を図る教頭の役割-

# 研究主題

未来を切り拓く力を育む

## 魅力ある学校づくり

-教職員の資質向上や  
職務意識の効用を図る教頭の役割-

全公教・道公教<第5課題>

「教職員の専門性に関する課題」

# 渡島公立学校教頭会 研究推進ロードマップ 2023～2025 《ゴールの姿をイメージ化》

【研究主題】 「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」 —教職員の資質向上や職務意識の高揚を図る教頭の役割—

令和5(2023)年度  
1年目(道公教道北大大会提言)

令和6(2024)年度  
2年目(道公教渡島大会)

令和7(2025)年度  
3年目(道公教日高大会提言)

## 【視点1】教職員の資質向上を図るための教頭の役割

### 《研究の立ち上げ》

- ・研究主題の設定
- ・研修計画の立案
- ・「共通取組シート2023」
- ・各市町での実践スタート
- ・単位教頭会での交流、協議、整理
- ・ブロックでの交流、協議
- ・渡公教研究大会
- ・成果と課題の整理

実態把握・実践交流

### 《実践の積み上げ》

- ・各市町の実態把握と実践収集

視点1についての課題把握と改善点等の分析  
＜キーワード＞

- ・職務意識
- ・創造性
- ・コンプライアンス
- ・危機管理意識
- ・課題意識
- ・学校運営参画意識

アセスメント

ファシリテーション

視点2についての課題把握と改善点等の分析  
＜キーワード＞

- ・専門性
- ・教員育成指標
- ・授業力
- ・ミドルリーダー
- ・保護者や地域への対応力
- ・研修
- ・ICT活用

課題把握・改善点分析

課題解決・実践の充実

## 【視点2】教職員の職務意識の高揚を図るための教頭の役割

### 主な社会背景

技術革新、グローバル化、人工知能の進化、高度情報化社会の到来、...  
「生活の質的变化に対する対応力の育成」

**Goal**

全国統一研究主題

未来を切り拓く  
力を育む  
魅力ある学校  
づくり

自ら積極的に未来を創造していく  
意欲をもち行動する

時代の進展・変化に的確に対応する

**生きる力**

令和二年度～令和四年度までの研究成果が土台  
「共通取組シート」による具体的な実践の成果  
(↓子どもの学びの保障、組織の活性化)  
①ICT機器の活用 ②異校種間、学校間との協働性 ③家庭・地域との組織的な連携 ④学校組織の活性化 ⑤働き方改革との関連性

継続性

関与性

協働性

# 教職員の専門家としての 意識高揚に関すること

## 視点1

教職員の専門性を  
高め、資質・能力の  
向上を図るための副  
校長・教頭の役割

## 視点2

教職員の職務  
意識を高揚し、  
創造性を発揮さ  
せる取組

# 視点 | 教職員の資質向上を図るための教頭の役割

## 【研究の重点】（継続性・関与性）

### 教職員の力量の向上につなげる人材育成の取組

#### ●教職員の指導力等の向上に関すること等

- ・教職員の教職経験に応じた専門性の育成

⇒教員育成指標の活用

- ・教職員の授業力や児童生徒及び保護者や地域への対応力の向上を目指す取組

⇒メンター制・教科担任制・交換授業・生徒指導対応研修など

# 視点Ⅰ 教職員の資質向上を図るための教頭の役割

●教職員が主体的に学び続けるための研修に関すること等

・新しい生活様式・新たな教育課題に対応するための研修  
と実践力の育成

⇒対話に基づく受講奨励・新たな研修制度の活用

・感染症対策やICT活用など教職員の資質・指導力、専門性を高めるための人材育成のためのシステムづくりと校内研修の活性化

⇒ICT活用・校内研修を外部に開き共有・協働する公開授業の方策等

## 視点2 教職員の職務意識の高揚を図るための教頭の役割

### 【研究の重点】（継続性・協働性）

教職員の協働体制づくりと

学校運営への参画意識を高める取組

### ●教職員の専門家としての意識高揚に関すること

- ・教職員の**職務意識**を高揚し、**創造性**を発揮させる取組

⇒**協働体制の確立**と**心理的安全性の確保**・メンター制

## 視点2

### 教職員の職務意識の高揚を図るための教頭の役割

- 教職員の学校運営参画意識の向上に関すること
  - ・ 教職員の**学校運営参画意識**を高めていくための副校長・教頭の関わり
  - ・ 教職員が**自分事**として意識して取り組む**働き方改革**  
⇒ **ミドルリーダー**による**学校運営**・**主体的に運営に参画するチーム作り**・**働き方改革の推進**

# 視点2

教職員の職務意識の高揚を図るための教頭の役割

## COMPLIANCE

● 教職員の服務に関すること

● 教職員のコンプライアンスの向上を図る取組

⇒ 危機管理意識の向上と学校安全に向けての  
対応力を育成するための研修

## 視点2 教職員の職務意識の高揚を図るための教頭の役割

- 学校段階間連携を通じた、教職員の課題意識の向上に関すること
- ・ 学校段階間連携を通して教職員の課題意識を高めていくための副校長・教頭の関わり  
⇒ 小小連携・小中連携・幼保小中高連携

## 視点1についての課題把握と改善点等の分析

### <キーワード>

- ・職務意識
- ・創造性
- ・コンプライアンス
- ・危機管理意識
- ・課題意識
- ・学校運営参画意識

**アセスメント**

**ファシリテーション**

## 視点2についての課題把握と改善点等の分析

### <キーワード>

- ・専門性
- ・教員育成指標
- ・授業力
- ・ミドルリーダー
- ・保護者や地域への対応力
- ・研修
- ・ICT活用

# マネジメント力

教育者としての資質のほか、的確な判断力、決断力、交渉力、危機管理を含む組織のマネジメント力が求められるものである。

## アセスメント

学校経営方針の策定に向けて、学校教育活動に関わる様々なデータや学校が置かれている内外環境に関する情報（自らの学校の強み・弱み、昨今の学校教育を取り巻く課題など）について、収集・整理・分析して教職員間や学校運営協議会で共有・適切な状況・課題把握を踏まえ、新たに取り入れるべき知識や技能に関する教職員間での認識の共有等

## ファシリテーション

多様な背景、経験、専門性等を有する教職員が円滑にコミュニケーションを取れる心理的安全性の確保・学校運営協議会などの学校・家庭・地域等の関係者間の協議における学校運営改善に向けた相互作用の促進等

# ファシリテーション（関与性）

学校という場で舵取りする相互作用

① 子供と子供の相互作用

② 子供と教師の相互作用

⇒ 授業はまさに子供と教師の協働作業でできあがる。

③ 教師同士の相互作用

⇒ 学校は大人の「学び合い」の場。

鍵となるのが「この場で誰に何を言っても受け入れてくれる」という感覚をみんなが共有している「心理的安全性」。

普段のコミュニケーションがポイント。

特に、リーダーやベテランが率先して取り組むことが大切。

# 組織的な実践研究（3C）を通して

継 続 性

協 働 性

関 与 性

# 共通取組シート

2023 渡公教「共通取組シート」兼「実践のまとめシート」 市町名：(知内町教頭会) ←

【研究主題】 「未来を切り拓く力を育む **魅力ある学校**づくり」 ←

～教職員の資質向上や職務意識の高揚を図る教頭の役割～ ←

## 【視点1】教職員の資質向上を図るための教頭の役割 ←

【研究の重点】  
○教職員の  
力量の向上  
につなげる  
校内研修体  
制づくり ←

各校の実践内容 ←

キーワード：教員育成指標にある専門性、授業力、保護者や地域への対応力、ICT活用能力、研修体制 ←

- ・町内小中学校、高等学校と連携した地域公開授業の実施 ←  
→ 参会者のニーズに合わせたテーマ別公開授業を年間複数回実施。初任段階・中堅段階などキャリアステージに応じた授業力向上、ICTを活用した授業、小中連携授業など ←
- ・持続可能な教師力を高めるための多様な研修方法の模索 ←  
→ 教員育成指標に根ざした研修の実施。生徒指導対応研修、保護者対応事例研修、学校経営方針に対して、自分がそれをどう生かすか考えるワークショップなど ←
- ・研究部にとどまらない、各チームが企画する研修の模索 ←  
→ 授業力、危機管理、コンプライアンス、生徒指導提要研修、特別支援研修、体育の実技研修など ←

○成果 ←

- 理論よりも実践的に学び、方法やノウハウ、セオリーなどを学ぶ研修を多くすることで、より自分事として考えやすく意欲的になる。 ←
- 公開授業など、実際に見て感じたことを窓口  
に学ぶ研修は、身に付くこと、新たな気づき  
などが多い。 ←

●課題 ←

- 時間を生み出す工夫。 ←  
→ 日課の改善、月に一度の午前授業日など、時間を生み出す工夫を開発する必要がある。 ←
- キャリアステージによって、温度差があること  
も多く、全員の底上げが難しい。 ←
- 働き方改革の一層の推進も不可避である。業務改善により研修の割合が厚くなるのは望ましいことである。 ←

## 【視点2】教職員の職務意識の高揚を図るための教頭の役割 ←

【研究の重点】  
○教職員の  
協働体制作  
りと、学校運  
営への参画  
意識の高揚 ←

具体的な自校の取組内容や体制 ←

キーワード：教職員の学校運営参画意識の高揚、コンプライアンスや危機管理意識の向上、学校段階間連携を通じた教職員の課題意識の高揚、職務意識の高揚と創造性を発揮させる体制づくり ←

- ・教職員同士のプラスの相互作用を促す校内文化の醸成 ←  
→ 心理的安全性の確保と普段のコミュニケーションにより考えを言いやすい職場にする。 ←  
→ ミドルリーダーが中心となって、前向きな合意形成を図るファシリテーター役として育成 ←
- ・実効的な学びとするためのメンターチームや学校力向上チームの活用 ←
- ・教育課題に対して、課題に応じたチームによる、対応・解決策・情報共有体制の構築 ←
- ・教員育成指標や人事評価制度を活用した個々との面談の実施。 ←  
→ キャリアに応じた役割や活躍の場の設定。課題意識を高めその解決策や目標の設定。 ←
- ・学校間での交流授業や、地域公開授業による職員間の交流の充実。 ←

現状における課題等 ←

- ・キャリア間、個人によって温度差がある。 ←
- ・教育課題に対応すべくチーム体制作りを行っているが、教育課題は多岐に及んでいるため、どのチームが対応するか判然としない場合もある。 ←
- ・多忙感、保護者対応、生徒指導対応などの複雑化・多様化により、なかなか職務意識ややりがい、教育への意欲が高揚するに至らないことも多い。(対応が困難、批判にさらされるなども少なからずある) ←

具体的な解決策 ←

- 意識が低い職員に役割を与えたりリーダーとして先頭に立たせるなど変化を付ける。 ←
- 業務を分担するために整理をする。新たな課題もその都度話し合い整理をする。一人で抱え込まず組織で対応することを徹底する。 ←
- 「教育の質を高めること」「子どもと向き合う時間を確保すること」「教師自身の人生を豊かにするために時間を確保すること」など働き方改革の意義をしっかりと周知し、過去の慣習などに捉わられず、思い切った働き方改革を断行する。業務も教育活動も迷ったときにはシンプルでコンパクト、教育的価値の高いものを選ぶ。 ←

「学校で取り組むこと」を各自で定め、「終結」段階における教職員の意識・資質と児童生徒の向上的変容を目指し、リーダーシップを発揮する上で「いつ」「だれに」「どのように働きかけをするか」、ステージを上げるために取り組んだことを成果として積み上げる

# 共通取組スライド

成果と課題をさらに発展

「気付き」

「共有・共感・協働」

「持続可能」な

取組とリフレクション

# 共通取組スライド

知内小 視点1 or 視点2

スライドの1枚目に視点1 視点2のどちらかについて

自校で今年度取り組んでいること、試みていること、今後重点にして取り組んでいきたいことをまとめます。

簡潔にわかりやすくできたらいいですが、1枚に収まらない方は2枚までは作成してよいことにします。

# 共通取組スライド

知内小 雑感・リフレクションシート

スライドの2枚目は、11月初旬に、「気付いたこと」「共通認識できたこと」「共感できたこと」「持続可能にする工夫」「新たに生まれた課題」などについて、各自が自由に振り返る1枚としたいと考えます。

こちらは、簡潔じゃなくてもよいです。箇条書きでも、随想風でも「個別最適」な書き方で書いてください。



大島小学校



マスコット  
キャラクター  
大漁くん



松城小学校

# 松前町



# 教頭会



小島小学校

小中一貫の松前学園  
として、教育活動を  
推進しています。



松前中学校

# 松前町立 小島小学校

## 視点Ⅰ 教職員の資質向上を図るための教頭の役割

### ICTの利活用を促進する 校内研修の確立

- デジタル教科書の活用方法
- タブレットの活用方法
- デジタルドリルの活用方法 等

校内研修を通して、お互いのノウハウを共有し、授業改善・働き方改革に繋げる。

### 専門性を高める働きかけ

ICT支援員（コンピテンス）との連携を通じて、教職員の専門性を高める取り組みを進めている。授業力向上・業務改善と多岐にわたる相談体制を確立している。

### 教頭の役割

研修での指導・助言、外部機関との連絡調整(クラスルームでの情報交流など)



北斗市

教頭会



2015年9月作成

《一般社団法人 北斗市観光協会》 北斗市中央1丁目3-10 ☎0138-74-3566 ホームページ

# 北斗市立 上磯小学校

## 【視点1 教職員の資質向上を図るための教頭の役割】

### 研修の充実と人材育成

#### ○教員の専門性や得意分野を生かした研修

- ・多様化する教育課題に対応するため、それぞれの教員が講師となったミニ研修会
- ・外部講師による専門性を高める研修会



#### ○いつでも相談できる環境づくり

- ・メンターを中心とした雑談で、学級経営や授業づくりのアイデア等を一緒に考える。
- ・生徒指導上の様々な課題を共有し、一緒に考える。

教員同士が放課後等の時間に自由に話せる場・雰囲気をつくり、日頃の悩みや課題解決の一助とする。  
主幹教諭による示範授業や学年団による交換授業などを実施し、初任段階教員の授業力向上や中堅層の学び直しの機会とする。

視点1 **教職員の資質向上を図るための教頭の役割** 北斗市立石別中学校

石別中学校の様子 北斗市の特認校の一つで小規模校  
全校生徒 17 名在籍（内、地元生徒 5 名、不登校生徒約 3 割）



【四者合同ふれあい大運動会】

【主な教頭の関わり】

- ◆研究部を中心としたミニ研修活動を充実させる  
（ICT 研修・生徒指導提要研修・各月ごとに、一人一人の生徒について行う生徒理解研修）
- ◆複雑・多様化する個に応じた対応策を検討させ、共通理解を図る。
- ◆管理職から、期首面談・期末面談を利用した教員個々へのアプローチ（育成指標との関わり）
- ◆地域と連携・協働した教育課程を実践することで、教員の資質・能力の向上に役立てる。
- ◆働き方改革として、業務の見直しと平準化を各部のリーダーに伝え、分掌組織の改編をした。  
（1 か月時間外在校時間 45 時間以内）
- ◆不登校対策委員会を中心に、外部機関との連携を密にした



【ICT 研修】

【主な成果】

- ・学校課題を研究主題とリンクさせた。  
「個別最適な学び」の実現～『学習の個性化』を成り立たせる選択肢の構築と授業の実践～  
→指導の個別化、学習の個性化選択肢が準備され、生徒がそれを選べる授業の構築  
子どもの困り感を探り、手立てを考える取組を通して、個別最適な学びを推進する  
生徒の実態をふまえ、学校の強みや課題を把握する。
- ・教職員一丸となって生徒指導や生徒理解に努める雰囲気醸成→全員で見守る・支援する
- ・授業振り返り週間を利用し、生徒の理解度を検証→各教科での生徒の授業の振り返りを全職員で検証する。  
（個々の生徒の学習状況の把握・学習意欲の向上）
- ・地域・保護者からの信頼のもと、職員の資質・能力向上の一助となった。



【地域・保護者と  
行う餅つき祭り】

【課題】

- ・校内的には、教員の全員歩調が保たれているが、研修意欲に個人差がある。
- ・時間外在校時間はクリアされているが、業務改善等を図り教師のウェルビーイングを向上させる余地が多くある。

# 七飯町教頭会共通取組スライド



大沼国定公園や城岱牧場など豊かな自然  
に恵まれた西洋りんご発祥の地 七飯町

## 視点2 教職員の職務意識の高揚を図るための教頭の役割

## 学校評価を活かした教職員の対話を軸としたベクトル合わせ

## なぜ行うの？

学校運営参画意識を高めるため  
方向性を合わせた教育を行うため  
対話を通して同僚性を高めるため

## いつ行うの？

2月～3月に実施。学校評価  
を生かし新年度の方向性を  
明確するよいタイミング。

## どのように行うの？

- 1 教頭がリード
- 2 事前のアンケートフォームにより教職員の思いや考えを表出
- 3 アンケート結果を見える化して教職員に提示
- 4 次年度の校内人事も踏まえた意図的なグルーピング
- 5 大切にしたい教育活動などをガチ対話
- 6 振り返りをアンケートフォームに記入→全体で共有
- 7 校長による経営方針への反映

対話を通してベクトルをそろえ、対話内容が経営方針に反映されることで学校運営参画意識が向上する。

1. 2030PJ達成状況などの確認 (5分)  
(インプット)
2. 本道に大切にしたい教育活動とは？ (15分)  
(アウトプット)
3. シェアリング (5分)  
(振り返り&アクションプラン)

●教頭がリード



校務運営委員会  
にて目的や実施  
の意義を説明。

必要感のある  
対話時間確保  
のため、事前  
に情報収集し  
整理。

やりとげるねばり強さ	13	読心算能力	0
判断する力	10	計算力	6
多様な意見や考えを尊重する力	10	知識の活用能力	6
抗戦する力	8	考えを伝達する力	5
自分の考えを表明する	7	結果と協力して取り組む力	4
		読心算・算数力	4
		リーダーシップ	3

●アンケート結果を見える化して先生方に提示



●大切にしたい教育活動をガチ対話

次年度の校内人事も踏まえた意図的なグルーピングによる対話。

令和6年度 渡島公立学校教頭会  
「共通取組スライド」

八雲町 教頭会



# 八雲町立熊石中学校 視点1

《教職員の資質向上を図るための教頭の役割》

教職員それぞれの「強み」を伸ばし、  
組織的に教育課題に向き合える人材育成環境の整備

## ①教員育成指標を活用した研修実施の推進

教職経験に応じた研修実施の推奨 人事評価シートを活用した助言

## ②「指導と評価の一体化」を研修の柱に据えた校内研修の活性化

ベテランと若手の組み合わせによる年間通したグループによる学習指導の  
検証改善

## ③教職員の主体的な学びを支える環境整備

学校評価教職員評価項目「校外での研修に参加しやすいと感じる」

「思う」「おおむね思う」80%以上の数値目標設定

自らの興味・関心事への研修を深めることができる「校外への研修活動に参加しやすい環境である」と実感できる心理的安全性の風土の醸成

## 視点1 教職員の資質向上を図るための教頭の役割

学校が抱える課題の複雑化・困難化と家庭・地域をめぐる環境の変化に対応する教職員研修の充実と日常化した人材育成



### ○中学校区での取組を通して教師のスキルアップ！

主に、CSの活動として、児童生徒理解の向上として、教職員向けのピア・サポート学習を実施する。前半は、理論学習を行い、後半は、ピア・サポートトレーニングを実際に体験する時間を設けた。

ゲームや自己紹介などを通して、互いに認め合い、高め合うことや仲間意識を持って、互いに支え合うことを目的としている。

### ○教育デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進

GIGAスクール構想による1人1台端末の実現に伴って～ICT活用の充実

町として、ICT活用向上推進チームを中心に①グーグルサイトの整備や有効活用の実際について

②Googl for Educationパートナー自治体プログラムの充実③ICT活用研修の充実

★アプリケーションの活用基礎研修★ICTを活用した授業づくり研修★最新アプリケーション活用研修

研究部中心に、学校における子どもの発達段階等の状況に応じたICT活用研修の充実を図る。

# 八雲町立野田生中学校 視点2

1. 教職員の専門家としての意識高揚に関すること
  - ・学活・道徳・総合について、学年団全員が参加
  - ・教頭による研修資料の共有
    - ⇒協働体制の確立、OJTによる指導技術の向上、複数の目による生徒理解
2. 教職員の服務に関すること
  - ・コンプライアンス研修の定期的・継続的な実施
  - ・不祥事に関する報道に合わせた臨時の研修の実施
    - ⇒危機管理意識の向上と学校安全に向けての対応力を育成するための研修
3. 学校段階間連携を通じた、教職員の課題意識の向上に関すること
  - ・中学校区CSを活用した合同学習及び職員研修（例）ピアサポート研修
    - ⇒小小連携・小中連携
4. 教職員の学校運営参画意識の向上に関すること
  - ・校務運営委員会を毎週実施
  - ・生徒指導主事を中心とした組織的な不登校対策
    - ⇒ミドルリーダーによる学校運営・主体的に運営に参画するチーム作り

# 八雲町立 浜松小学校 視点1

## 教職員の資質向上を図るための教頭の役割

### ◎ 教員育成指標とPlantを積極的に活用した研修等の取組

- まず、「教員育成指標とは何か」を知ってもらう
- 次に、自分のキャリアステージにおける求められる資質・能力をとらえてもらう→自己診断シートも活用
- そして、対話による研修LinkナビやPlantの取組を促進する
- さらに、教頭自身が活用したことを「やんわり」と伝え職員が活用したことは「しっかり」と取り上げる



入力シート		「北海道における教員育成指標」自己診断シート【中堅段階編】	
学校名:	氏名:	所属部署:	所属学年:
求める教員像	キーとなる資質能力	自己診断項目（期待される具体的姿）	自己診断結果
教育者としての強い使命感・倫理観・使命感や責任感・倫理観	児童の発達に合わせた適切な指導力	児童の発達に合わせた適切な指導力（児童の発達に合わせた適切な指導力）	
と、子どもへの深い教育的愛情を、常に持ち続ける教員	総合的人間力	総合的人間力（総合的人間力）	
	授業に対する深い情熱・人間的成長	授業に対する深い情熱・人間的成長（授業に対する深い情熱・人間的成長）	
	主体的に学び続ける姿勢	主体的に学び続ける姿勢（主体的に学び続ける姿勢）	
教育の専門性としての、実践的指導力や専門的知識・技能	教科等（保育）や教職に関する専門的な知識・技能	教科等（保育）や教職に関する専門的な知識・技能（教科等（保育）や教職に関する専門的な知識・技能）	
	資質・能力	資質・能力（資質・能力）	
	「カリキュラム・マネジメント」への対応力	「カリキュラム・マネジメント」への対応力（「カリキュラム・マネジメント」への対応力）	
	「生涯教育の充実」への対応力	「生涯教育の充実」への対応力（「生涯教育の充実」への対応力）	
	「外国語教育・国際理解教育」への対応力	「外国語教育・国際理解教育」への対応力（「外国語教育・国際理解教育」への対応力）	
	子どもの理解力	子どもの理解力（子どもの理解力）	
	生徒指導・進路指導力	生徒指導・進路指導力（生徒指導・進路指導力）	

「わかりやすい」内容を「丁寧」に説明し、「できる」ことを「確実に」進め、教職員の「自走」に向けた「足がかり」をつくる。

### ◎ 校内研修の「協働」を通じた資質向上への挑戦

- 「みんなで行う授業づくり」へのかかわり
  - 授業者中心ではなく、チームでの授業づくりによる自分事化
  - 担任をもつ教頭を「強み」ととらえた、授業づくりへのかかわり
- 「八雲スタイル」に基づく読解力の向上にむけ、校内で統一した実践を通し、児童の変容や授業改善にむけた意見交流に取り組む



「担任をもつ教頭」として教職員との協働意識を高め、ファシリテートしながら資質向上に取り組む

はっしょう  
「八雲小 **カリキュラム・マネジメント**」で  
**学校経営参画意識** を育てる  
「TEAM YAKUMO MIND」

校長の学校経営ビジョンを全職員で共有し、それを達成するために具現化した「八雲小カリキュラム」に、様々なアンケートや学力テストを反映させる。そして、そのカリキュラムを学年、校務分掌などでPDCAを機能させ、「TEAM YAKUMO MIND」＝「**学校経営参画意識**」を育てる。

令和6年度版 八雲小カリキュラム

八雲町立八雲小学校 八小カリキュラム 6年	
行事	...
八雲スタンダード	...
各教科 総合 特活 外国語	...



**A(改善)**

- CS 八雲スタイル
- 学校評価
- 先生・児童アンケート
- 保護者アンケート
- 全国学テ・NRT
- などの分析と傾向

令和7年度へ

TEAM YAKUMO MIND  
**PDCA×カリキュラム・マネジメント＝学校経営参画意識の向上**

- 心理的安全性の確保
- アセスメント力
- これらを支える教頭の役割
- ファシリテーション力
- ミドルリーダーの育成



森小学校  
森中学校  
鷺の木小学校  
さわら小学校  
砂原中学校



**森町教頭会**



# 森町立砂原中学校



視点1 教職員の職務意識の高揚を図るための教頭の役割

重点：日々の「ふれあい活動」でのコミュニケーションの充実

全学年学級

ワンフロア

生活様式

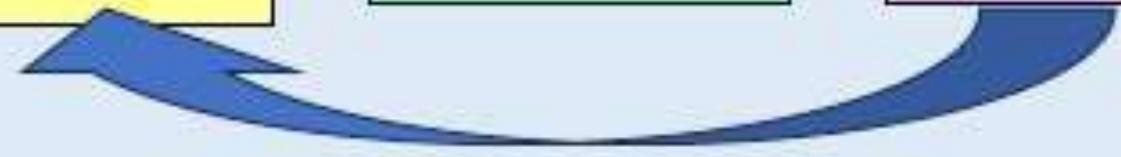
砂原中独自の取組  
今年度スタート

教頭の役割=循環させること

各職員とのコミュニケーションと  
各教職員の生徒へのかか  
わりの見取り

正しい生徒理  
解に基づく  
生徒とのかか  
わりへの評価

職員のウエル  
ビーイングと  
職員間の協働  
体制の構築



不登校生徒への支援を組織的に取り組むための環境整備



不登校生徒の対応を担任任せにするのではなく、組織的に対応することで、協働体制を築くとともに、教職員の資質向上を図る。

初任段階教師からベテラン段階の教師が協働して取り組むことで同僚性を高めることにつながった。

保護者や子どもの安心にもつながり、子供の学びを保障する場所となっている。

<教頭として> 教職員の資質向上を図るために心掛けていること

- ・一人一人の特長や課題を把握するための対話を欠かさない。
- ・学校が自走するチームとして機能させ、学級・学年・分掌間の調整し、業務に対する負担感を減らす。
- ・学校が直面する課題や変化を前向きにとらえ、教職員の主体的な学びにつながる情報発信を行う。
- ・心理的安全性の高い職場になるよう、初任段階教員からベテラン段階教員の同僚性を高めるOJTやメンター研修の場を意図的に設定する。

# 道公教研究大会 渡島大会



同じ目的をもち、ともに悩み  
一緒に考える仲間は、とても貴重です。

つながりを大切にし、  
子供達のために、教職員のために  
一緒によい学校を創っていきましょう。

持続可能な学校力

持続可能な教師力を育む

令和6年度 北海道公立学校 第3ブロック研修会

檜山の特色を生かした魅力ある教育活動の推進と教頭の役割  
～ふるさと教育からつくる社会に開かれた教育課程～

日付 令和6年11月1日（金）

発表 檜山教頭会研修部



# 研究発表概要

**I 檜山管内の特徴**

**II 主題設定の理由**

**III 研究のねらい**

**IV 研究の視点**

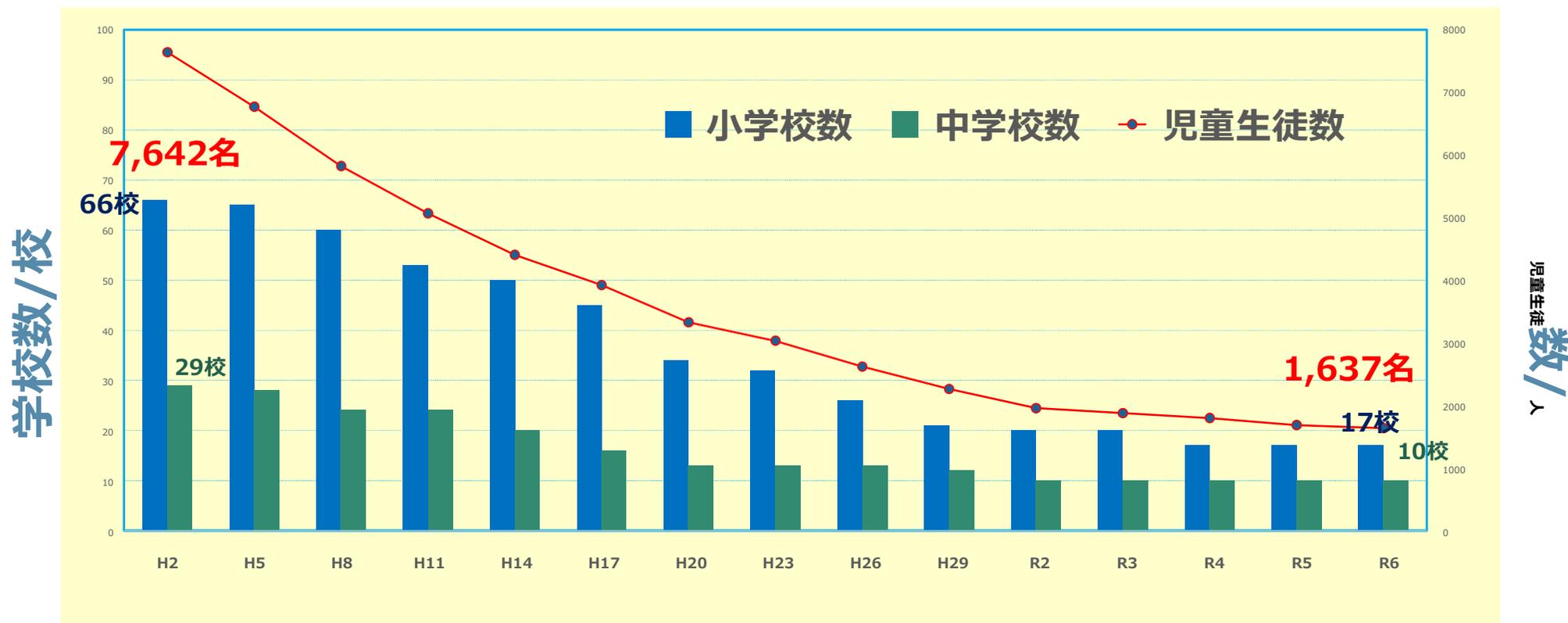
**V 研究計画**

**VI 研究方法**

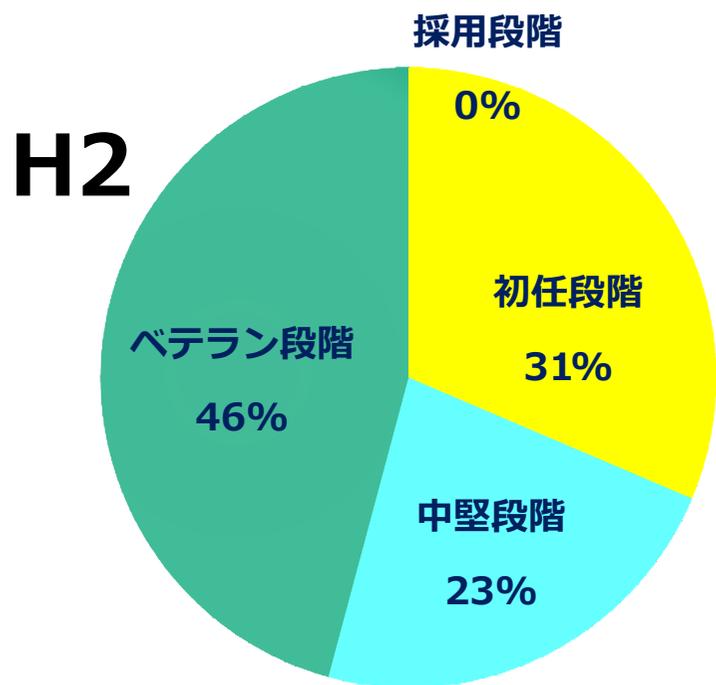
**VII 現段階の取組状況**

**VIII まとめと課題**

# I 檜山管内の特徴

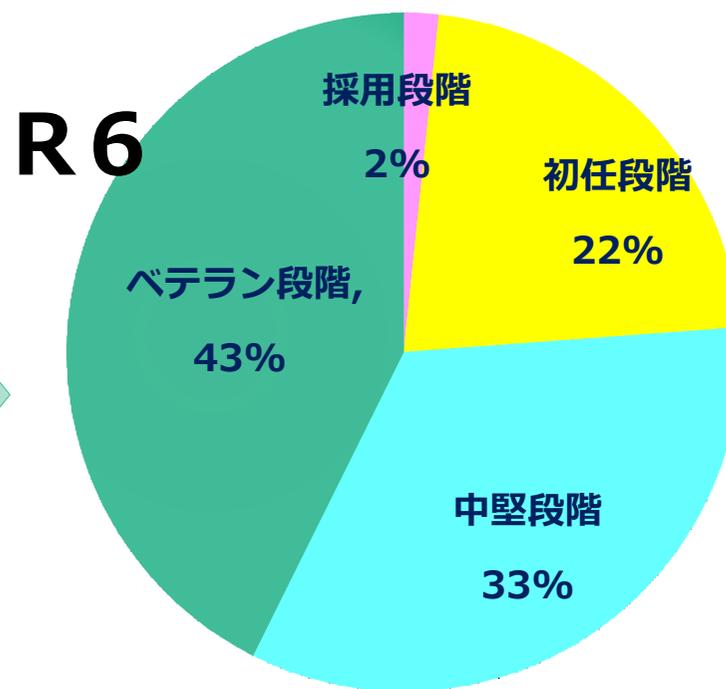


# I 檜山管内の特徴



教員数  
548名

児童生徒：教師比  
14：1



教員数  
298名

児童生徒：教師比  
5.4：1

# I 檜山管内の特徴

- ・ 著しい児童生徒数の減少と学校数の減少
- ・ 学校数減少→中堅以上の異動先の固定化
- ・ 児童生徒/教師比 5.4 : 1
- ・ 非正規採用教員の増加
- ・ 効率化の時代→多様性へ

若年層教員の  
責任・負担感増

## Ⅱ 主題設定の理由

研究テーマ 第16次3カ年継続研究（令和5～7年度）

「檜山の特色を生かした魅力ある  
教育活動の推進と教頭の役割」

～ふるさと教育からつくる社会に開かれた教育課程～

継続性  
Continuity

協働性  
Collaboration

関与性  
Commitment

## Ⅱ 主題設定の理由

### 3 Cの視点からの檜山教頭会の特徴（課題）

#### 《継続性》

- ・ 各町単位での会員数の減少（学校数の減少）
- ・ 各町内の教頭の大幅な入れ替え（異動）
- ・ 新任教頭による研究担当

⇒ 檜山教頭会としての研究の持続性の維持が課題

## Ⅱ 主題設定の理由

### 3 Cの視点からの檜山教頭会の特徴（課題）

#### 《協働性》

- ・ 教頭間の横の連携の強化
- ・ 効率的で効果的な情報共有
- ・ 研究に関する簡略化、効率化

⇒ 檜山教頭会の密でスピード感ある連携強化が課題

## Ⅱ 主題設定の理由

### 3 Cの視点からの檜山教頭会の特徴（課題）

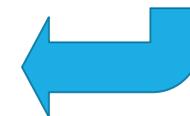
#### 《関与性》

- ・ 自校の教職員の参画意識の向上
  - ・ 自校の教職員の指導力向上
  - ・ 経験年数に応じた各段階への取組
- ⇒ 自校・各町の取組（関与）を  
檜山教頭会全体のものとする共有が課題

## Ⅱ 主題設定の理由

道公教第16次3か年継続研究 檜山教頭会の担当研修主題

### 第1課題 教育課程に関する課題



信頼される学校づくりに資する「社会に開かれた教育課程」の編成・実施・評価に関すること  
(カリキュラム・マネジメント)

教育目標の設定と具現化に関すること

教科横断的な視点に立った資質・能力に関すること

教育課程の実施と学習評価に関すること

幼・保・小・中・高・特別支援学校の連携に関すること

小中一貫教育に関すること

家庭や地域との連携及び協働に関すること

## Ⅱ 主題設定の理由

### 研究主題策定にあたっての2つの柱

#### 柱1 檜山管内教育推進の重点から

- ・「檜山の特色を生かし、一人一人に寄り添いながら学びを支える」と関連させた『檜山の特色』を生かした研究とすること

#### 柱2 学習指導要領に基づいた考えから

- ・「社会に開かれた教育課程」に関連する研究とすること

## Ⅱ 主題設定の理由

### 第1課題 教育課程に関する課題

信頼される学校づくりに資する「社会に開かれた教育課程」の編成・実施・評価に関すること  
(カリキュラム・マネジメント)

教育目標の設定と具現化に関すること

教育課程の実施と学習評価に関すること

小中一貫教育に関すること

教科横断的な視点に立った資質・能力に関すること

幼・保・小・中・高・特別支援学校の連携に関すること

家庭や地域との連携及び協働に関すること

## Ⅱ 主題設定の理由

### 檜山管内の教育の背景

急激な人口減少

学校数の減少

地域経済の規模縮小

児童生徒数減少

少子高齢化

それゆえに・・・

## Ⅱ 主題設定の理由

### ふるさと教育を活用して

児童生徒に「檜山の特色と魅力」を再発見させたい。

児童生徒に「ふるさと檜山に誇りと愛着」をもってもらいたい。

将来の檜山を考える人材が育つ教育を推進していきたい。

## Ⅱ 主題設定の理由

### 檜山管内のふるさと教育の現状

各学校単位で地域の特色の活用や創意工夫がなされている。

地域の人的資源や物的資源の情報が学校内で留まっている。

近隣町であっても情報共有が不足している。

地域社会との連携及び協働をより一層進めていく必要がある。

## Ⅱ 主題設定の理由

### 社会に開かれた教育課程の必要性

- ① 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。
- ② これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。
- ③ 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。

平成28年12月中教審答申「学習指導要領等の改善及び必要な方策」より

## Ⅱ 主題設定の理由

### ふるさと教育への教頭の関与

檜山管内全体で、歴史や文化、自然の特色に関する情報について教頭がそれぞれに関与し、情報共有する。



地域社会との連携及び協働をより一層進めることができる。

### Ⅲ 研究のねらい

○ふるさと教育における各学校の知を檜山管内の共同知としてまとめる。

○地域の人的資源・物的資源を有効活用するための方策を考える。

○各資源について学校間を越えて相互に利活用し、社会に開かれた教育課程を実現するための方策を考える。

## Ⅳ 研究の視点

### (1) 地域の人的資源と物的資源の活用に関して

#### ① 量的支援

学校の通常授業を量的（授業時数、講師数など）に補完する支援を基にした考察

## Ⅳ 研究の視点

### (1) 地域の人的資源と物的資源の活用に関して

#### ② 質的支援

教職員にとって実施困難（充実が困難、深化が困難）な教育内容（医療、戦争体験、郷土史、地場産業など）を質的に補完する支援を基にした考察

## Ⅳ 研究の視点

### (2) 教頭の効果的な関与についての整理に関して

「つなげる、つながる」を合言葉に

- ① 『教育課程』 とつなぐ。
- ② 『教職員』 どうしをつなぐ。
- ③ 『地域と教職員』 をつなぐ。
- ④ 『教頭』 どうしをつなぐ。
- ⑤ 上記以外のつなぐ。

## Ⅳ 研究の視点

### ○ 3 Cの視点から

**継続性**  
**Continuity**

一貫したテーマのもとでの継続研究

**協働性**  
**Collaboration**

教頭会員の情報交流と教育実践を共有・深化する研究

**関与性**  
**Commitment**

学校教育に教頭として、どのように関わるかを追究する研究

# V 研究計画

## (1) 1年次

研究計画立案と改善、各地区の特色、学校課題の整理と情報共有

## (2) 2年次

各地区のふるさと教育に関するデータベースの作成、実践交流と計画修正

## (3) 3年次

ふるさと教育データベースの活用、実践の深化、評価、まとめ

# VI 研究方法

## 各町教頭会

P 取組計画策定  
C 実態状況分析

D 具体的取組の整理  
A 改善策検討

江差町教頭会

上ノ国町教頭会

厚沢部町教頭会

乙部町教頭会

奥尻町教頭会

今金町教頭会

せたな町教頭会

## 檜山教頭会

実践報告



・各町取組進捗状況把握

・各町取組結果交流

・全公教・道公教の情報提供



情報提供

・統一アンケートで調査・確認

・総合的な分析・深化  
(教頭の関与性分析等)

# VI 研究方法

## 各町教頭会

- 1 各町や各校の特色、ふるさと学習の  
実践に関する情報の整理
- 2 各校や各町の実態・状況の分析
- 3 成果と課題のまとめ

檜山教頭会  
研修部との  
連携

## 檜山教頭会

実践報告



- ・各町取組進捗状況把握
- ・各町取組結果交流
- ・全公教・道公教の情報提供

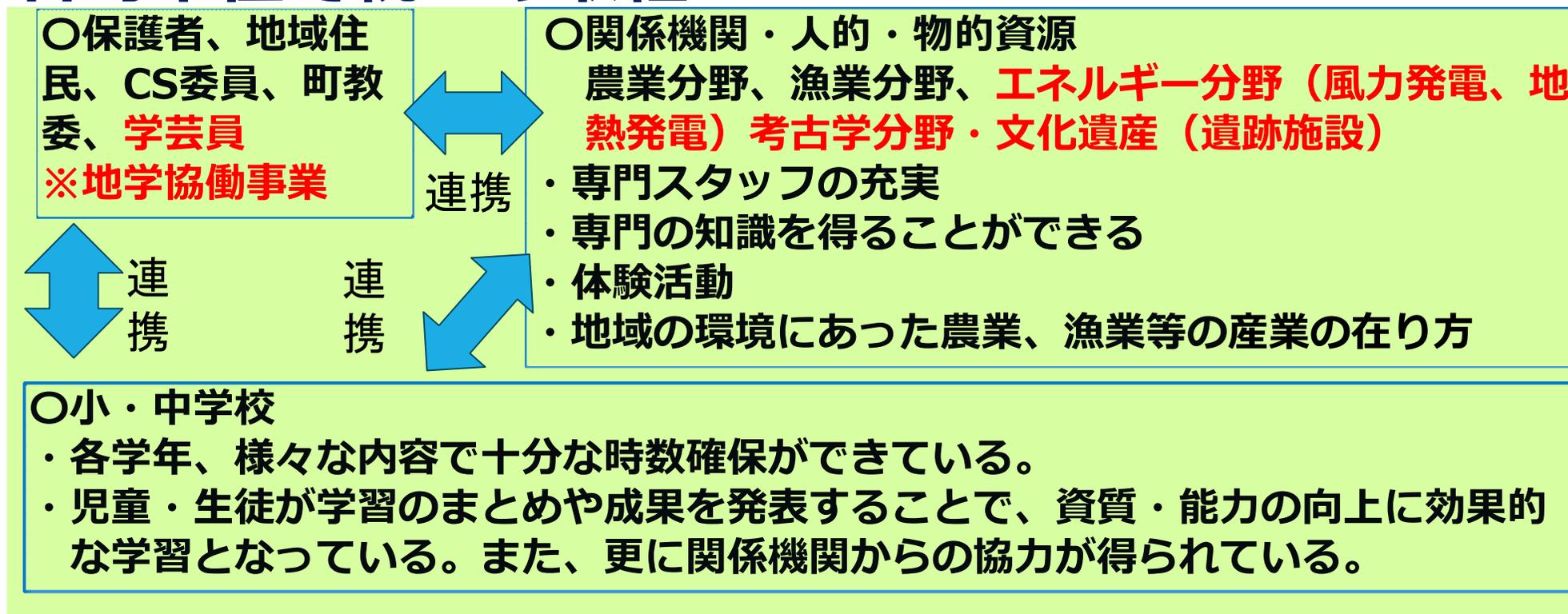
情報提供



- ・統一アンケートで調査・確認
- ・総合的な分析・深化  
(教頭の関与性分析等)

# Ⅶ 現段階の取組状況（R5～R6）

## 各町単位で統一の取組 量的支援の活用状況



# Ⅶ 現段階の取組状況

## 各町単位で統一の取組

## 量的支援の活用 課題

○保護者、地域住民、CS委員、町教委、**学芸員**  
**地学協働事業の活用**  
・人材バンクの依頼

○関係機関：人的・物的資源

- ・地域の世帯数の減少や高齢化のため、学習の継続が困難
- ・キャリア教育に関する講師の不足

連携

連携

連携

○小・中学校

- ・各活動の教育課程の位置づけ、見直しの必要性
- ・総合的な学習の時間と各教科等、教科横断的な内容での見直しの必要性
- ・小学校と中学校の学習内容の系統性、内容に重なりがないように確認

# Ⅶ 現段階の取組状況

## 各町単位で統一の取組

## 質的支援の活用状況・課題

分野	行政・社会教育	産業体験・自然体験 (地域の特色を活かした学習)	郷土芸能	震災体験	新たな産業
活用状況	専門機関・関係機関との連携が十分である。	質が高く、専門的な知識が得られる。	主に、実技・実演である。	実際の体験談を聞くことができる	地域の新しい産業の理解が進んだ。
課題	なし	なし	後継者の不足により、継承が難しい。学習を継続させるための方法を模索する必要がある。	高齢化が進み、体験談を聞くことが難しくなっている。資料等での学習が多い。	地域にはない専門性の高い学習について、外部講師、支援スタッフの協力が必要である。

## Ⅶ 現段階の取組状況

### 各町単位で統一の取組

**「つなげる、つながる」**ための効果があると考え教頭の関与

#### ○小小連携、小中連携や町教委との連携

- ・担当者だけではなく、教頭の関与がある方がスムーズで効果的に進められる。

#### ○教育課程の編成

- ・教務主任を中心に、より効果的な教科等横断的な学習の展開を考える。

※義務教育9年間を見通した系統性のある教育課程の編成を進める。

※PDCAサイクルの確立で、複数の教職員で共有・連携し合う体制を作る。

#### ○教職員への情報提供・地域との連携

- ・教職員にCS委員や地域住民、保護者等からの情報提供を積極的に発信する。
- ・保護者、地域、関係機関へ学校の取組を発信し、学校への協力を呼び掛ける。

※上記の取組を推進するために

教頭間で日常的な連携、情報共有をする。（ビジネスチャットツールを活用）

# Ⅶ 現段階の取組状況

## 各町単位で統一の取組

**「つなげる、つながる」ための効果が困難と考える教頭の関与**

- ・ 学校の統合を含めた地域の衰退、校区の広域化による地域住民とのつながりの希薄化。
- ・ 地域住民の願いと学校の教育活動のねらいのすり合わせ
- ・ 施設等との効果的なつながり方の工夫（オンライン等）

# Ⅶ 現段階の取組状況

## データベース化 ～効果的な教頭の関与のために～

データベースの項目は

学年・教科・教育活動・領域・学習内容・時期・講話・見学場所・体験場所・時数・他教科との関連・窓口・職名・氏名・連絡先

### データベースの有効な活用

- 1 情報の一元化：必要な**情報に迅速にアクセス**
- 2 関係者間の連携強化：**連携が円滑、コミュニケーション促進**
- 3 リソースの最適化：**教育資源の配分や活用**がより効果的に行えるようになる。
- 4 持続的な改善：定期的に**データを更新・分析**することで、教育活動の質を向上させ、**継続的な取組**ができるようにする。

# VII 現段階の取組状況

## データベース

学年	教科	教育活動	領域	学習内容	時期	講話・見学・体験場所	時数	他教科との関連	窓口	職名	氏名	連絡先
3年	総合	ふるさと学習	自然	厚沢部の森 レクの森自然観察 植物・生き物	5月	レクの森	3	行事(遠足) 国語科	厚沢部町教育委員会	学芸員	石井 富塚	0139 64-3318
3年	総合	ふるさと学習	地域	厚沢部について 昔の道具	12月	郷土資料館	2	国語	厚沢部町教育委員会	学芸員	石井 富塚	0139 64-3318
4年	総合	ふるさと学習	自然	厚沢部の川 川の生き物観察 カワヤツメ	6月	厚沢部川	2	理科 国語	河川資源保護振興会	代表	坂本	個人携帯
4年	総合	ふるさと学習	地域・管内	近くの町について 町の便利さ	9月	講話	2	国語	厚沢部町 政策推進課政策推進係	—	木口	厚沢部町役場
5年	総合	ふるさと学習	産業	厚沢部町の産業 芋(メークイン)	12月	講話	1	社会	厚沢部町役場 農林課	—	吉田	0139 64-3311

# Ⅶ 現段階の取組状況

## データベース

データベースの活用の効果（例）

リソースの最適化：教育資源の配分や活用がより効果的に行えるようになる。

### 町内でのリソースの活用

- 学校の統合が進む町での活用
- ・地域の**資源**を活用し、地域の**人とのつながり**も絶やさない

### 町外のリソースの活用

- ・他町の資源を活用した学習の広がり  
**ICT**でつなぐ等

# Ⅶ 現段階の取組状況

## データベース

### せたな町（せたな区）

- ・ うに採り体験
- ・ 久遠神楽
- ・ 鮭稚魚放流
- ・ 風力発電
- ・ 郷土料理
- ・ キャリア教育

### せたな町（北桧山区）

- ・ 牧場
- ・ 農業（トマト・田植え・稲刈り）
- ・ 川（水質・生物）
- ・ 風力発電
- ・ 町内観光地調査
- ・ キャリア教育
- ・ 愛知県豊山町

### 今金町

- ・ 石器づくり
- ・ 火おこし
- ・ 砂金ほり
- ・ 化石採掘
- ・ 水生生物調査
- ・ じゃがいも・米・しいたけ
- ・ 愛知県豊山町

# Ⅶ 現段階の取組状況

他地域との  
比較

## データベース

### 今金町

- ・ 森林
- ・ しいたけ
- ・ 神輿
- ・ 高校キャリア教育

### 奥尻町

- ・ 鮭
- ・ シーカヤック
- ・ ウニ採り・魚のさばき方
- ・ 稲作
- ・ ブナ林
- ・ 遺跡
- ・ 地熱発電

# Ⅶ 現段階の取組状況

## データベース

### 厚沢部町

- ・ 森（自然観察・樹木・草木）
- ・ 川（ヤツメウナギ・鮎）
- ・ キャリア教育（職場体験等）
- ・ 農業（ブロッコリー・大豆  
・ 米・サツマイモ・  
メークイン）

### 乙部町

- ・ 漁業
- ・ 農業（稲作・大豆等）
- ・ 養蜂
- ・ キャリア教育

# Ⅶ 現段階の取組状況

## データベース

### 上ノ国町

- ・ 勝山館
- ・ 野菜作り
- ・ 特産（絹さや）
- ・ 昔踊り
- ・ 林業
- ・ 稲作
- ・ キャリア教育

### 江差町

- ・ 江差の歴史（開陽丸）
- ・ 江差追分
- ・ 伝統芸能（沖揚げ、鹿子舞等）
- ・ 地域の料理

## Ⅶ 現段階の取組状況

### 教頭の職能を高めるための研修/研究内容交流

#### 座談会/ワールドカフェ



- ・ 教頭の職能向上  
(実践上の悩み等交流)
- ・ 研究の協働性向上
- ・ ICT実技研修

#### 学校運営研修会



- ・ 教頭の職能向上
- ・ 一般教員の指導力や  
学校運営参画意識の向上
- ・ 研究の協働性向上

#### 教育研究大会



- ・ 教頭の職能向上
- ・ 次期教頭の育成
- ・ 研究の協働性向上

## **Ⅷ まとめと課題**

---

- **地域の人的・物的資源の効果的な活用**  
「質的支援」「量的支援」の充実を生かす取組を
- **適切な現状分析とそれに基づく具体策の検討**
- **教頭としての効果的な関与の意識を高くもち、学校が目指すビジョンの共有と具現化**
- **各校や各町での情報共有の重要性**

## Ⅷ まとめと課題

### 今後の課題

- ・ 地域社会との連携及び協働の進め方
- ・ 「つなげる、つながる」ための関与の方法
- ・ 各町教育委員会（特に学芸員）や檜山教育局等の関係機関との連携

- ・ データベース作成の活用、実践、評価、まとめ

 教頭の適切な関与がふるさと教育の充実に

⇒ 社会に開かれた教育課程の実現に

ご清聴ありがとうございました



檜山教頭会



**令和6年度北海道公立学校教頭会 第3ブロック研修会**  
**「組織・運営に関する課題」**

**未来を切り拓く豊かな人間性と創造性を育む  
活力ある学校づくりの推進**

～活力ある学校をつくる「組織・運営」における教頭の関与の在り方～

**函館市小学校教頭会**

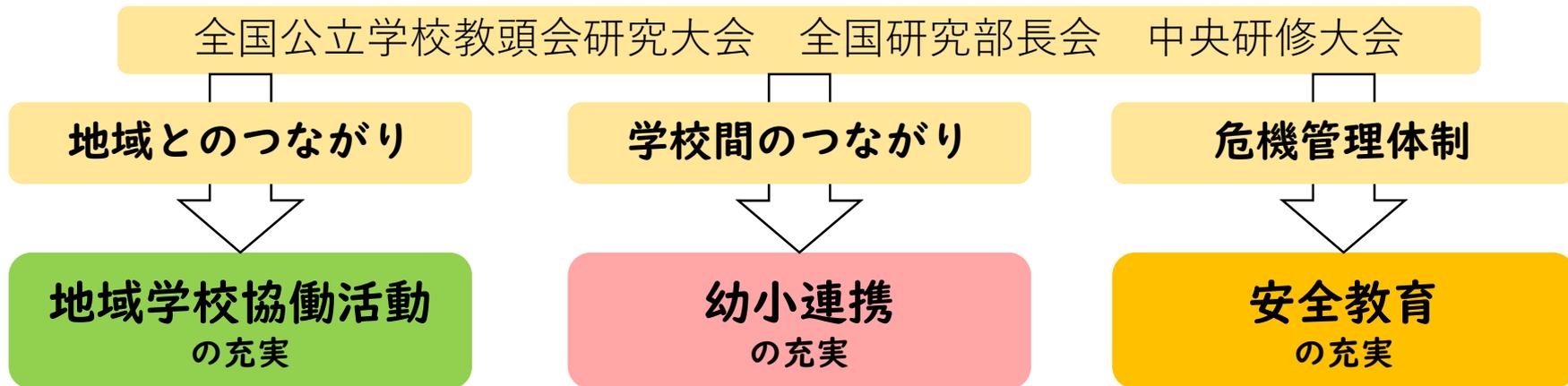
**2024.11.1（金）函館市民会館小ホール**

# 1 研究計画

# 1 研究計画

## 組織・運営に関する課題

学校が組織として機能し、学校を取り巻く様々な課題に  
適正かつ迅速に対応するための体制づくりに関する課題



函館市小学校教頭会

未来を切り拓く豊かな人間性と創造性を育む  
活力ある学校づくりの推進

# 1 研究計画

## 令和5年度から7年度までの取組

3  
C

**R 5 道北大会研究発表  
実態把握→課題の焦点化**

**R 6  
改善への取組→好事例の共有**

**R 7 日高大会研究発表  
研究のまとめ→充実**

継続性

**アンケート調査**

- ・フォームを活用したアンケートによる実態把握

**グループによる研究推進**

- ・地学協働、幼小連携、安全教育の3グループ 成果は全体に還流

**研究のまとめ**

- ・3グループ 成果と課題のまとめ

同僚性を発揮して、自校だけでなく、市内全ての学校において問題解決が図られるよう協働的に研究を進める

協働性

**実態交流**

- ・定例研修会時に協議 アンケート調査のレディネス

**好事例の共有・事例協議**

- ・課題解決に向けた協議
- ・好事例を共有する

**成果の反映**

- ・他グループの成果を自校の取組に生かす

教頭として何をすべきか、どう関わるべきか、教頭会の課題を自らの職務遂行等に関連させ、成果を教頭会に反映させる

関与性

**学習会の実施**

- ・研究担当者（通知、指導資料等）何をすべきかを全体に還元

**職務遂行を通じた研究推進**

- ・各校における取組の推進  
どう関わるべきか



# 1 研究計画

## 令和5年度から7年度までの取組

3  
C

**R 5 道北大会研究発表  
実態把握→課題の焦点化**

**R 6  
改善への取組→好事例の共有**

**R 7 日高大会研究発表  
研究のまとめ→充実**

継続性

**アンケート調査**

- ・フォームを活用したアンケートによる実態把握

**グループによる研究推進**

- ・地学協働、幼小連携、安全教育の3グループ 成果は全体に還元

**研究のまとめ**

- ・3グループ 成果と課題のまとめ

同僚性を発揮して、自校だけでなく、市内全ての学校において問題解決が図られるよう協働的に研究を進める

協働性

**実態交流**

- ・定例研修会時に協議 アンケート調査のレディネス

**好事例の共有・事例協議**

- ・課題解決に向けた協議
- ・好事例を共有する

**成果の反映**

- ・他グループの成果を自校の取組に生かす

関与性

**学習会の実施**

- ・研究担当者（通知、指導資料等）何をすべきかを全体に還元

**職務遂行を通じた研究推進**

- ・各校における取組の推進  
どう関わるべきか



# 1 研究計画

## 令和6年度の取組

地域とのつながり

地域学校協働活動  
の充実

7月定例研修会  
事例発表

中部小 千田教頭先生  
中島小 細川教頭先生  
湯川小 中村教頭先生

学校間につながり

幼小連携  
の充実

11月定例研修会  
事例発表

えさん小 宮城教頭先生  
中央小 村上教頭先生  
柏野小 佐藤教頭先生  
中の沢小 佐々木教頭先生

危機管理体制

安全教育  
の充実

1月定例研修会  
事例発表

北星小学校 時田先生  
港小学校 平石先生

# 1 研究計画

## 令和6年度の取組

地域とのつながり

地域学校協働活動  
の充実

7月定例研修会  
事例発表

中部小 千田教頭先生  
中島小 細川教頭先生  
湯川小 中村教頭先生

学校間につながり

幼小連携  
の充実

11月定例研修会  
事例発表

えさん小 宮城教頭先生  
中央小 村上教頭先生  
柏野小 佐藤教頭先生  
中の沢小 佐々木教頭先生

危機管理体制

安全教育  
の充実

1月定例研修会  
事例発表

北星小学校 時田先生  
港小学校 平石先生

## 2 今年度の研究

PTA活動を再開したいけど、  
単独では難しい。



活動を始めたばかりで、試行  
錯誤の連続



コロナ禍からの活動再開  
「みんなのふれあい広場」  
開催に向けた取組

コラボして、  
一緒に取り組んでいきたい！

中部小学校区みんなの地域会議

「みんなのふれあい広場」開催に向けた取組

### 中部小学校区みんなの地域会議



- P T A と中部カフェ企画委員会とで、それぞれの願いや考えを述べながら、積極的かつ建設的な話し合いを行っている。
- P T A と地域全体とで、手厚く子どもたちのための活動を企画・実施することができる。
- P T A 会費だけでなく、中部カフェ企画委員会で得ている一般企業からの助成金等、運営のための資金が確保されており、活動を一層充実させることができる。

「みんなのふれあい広場」開催に向けた取組

中部小学校区みんなの地域会議



会議の開始時刻

会議日の日程調整

課題

両団体の「願い」の調整

ふれあい広場の開催日設定

## 地学協働～CSを軸にした取組

キーワード：教育活動の充実、働き方改革の推進、持続可能な取組

### 課題

活動の形骸化

18時以降の開催

学校経営方針等への関心

地域での子ども像と  
学校での子ども像の乖離

教職員への理解

### 改善

キーワード

授業参観 給食試食会 児童会の交流

勤務時間中の開催

学校での子供理解

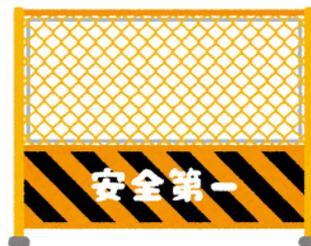
教職員への理解

### 安全マップの交流

- 児童会三役が通学コースの縦割り班で作成した「安全マップ」の危険箇所を発表
- 学校運営協議委員から、さらに危険箇所を提示され「安全マップ」に追加



地域住民との  
危険箇所の交流



### S N S 実態調査の交流



- 児童会三役が学校で実施した S N S 等の実態調査結果と課題等を報告
- 学校運営協議委員へ問題点を質問

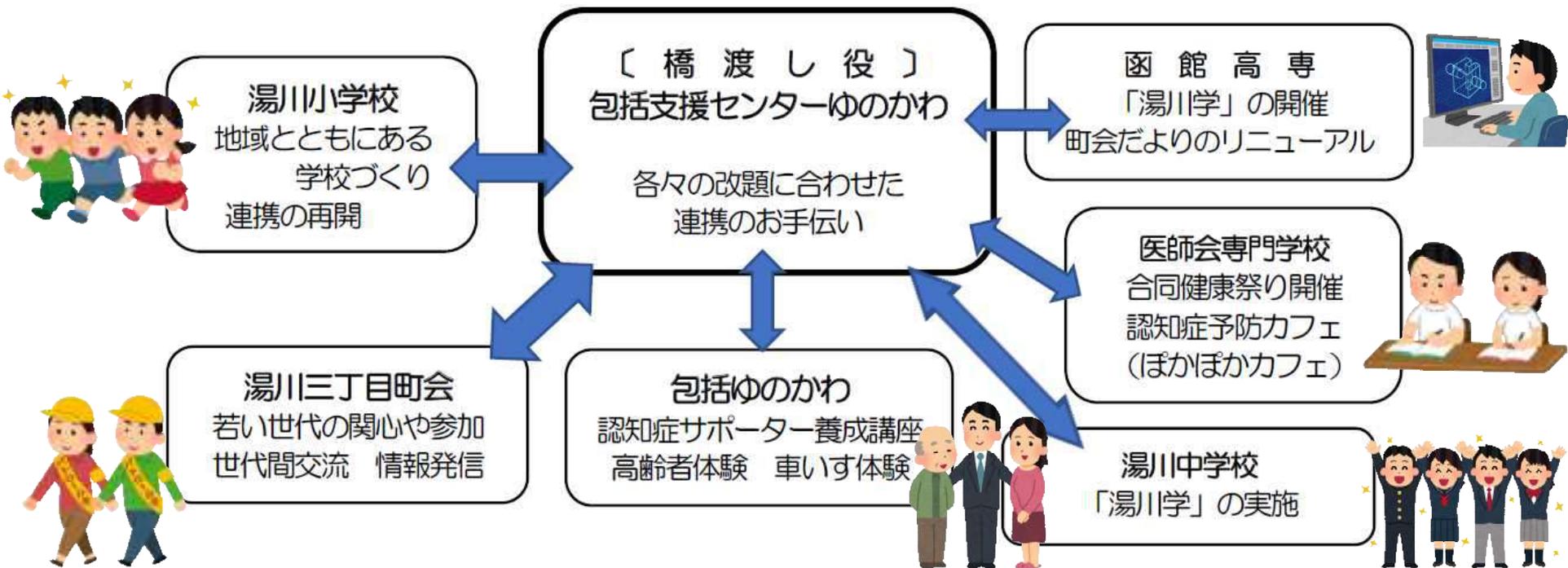


現代の子供が抱える  
問題等の共有  
不登校の要因への理解



# 「地域とともにある学校」づくりの推進

☆ 「地域包括支援センターゆのかわ」を橋渡し役とした活動



### 【今年度予定している主な活動】

#### □「包括ゆのかわ」→「湯川三丁目町会」

- ☺ セタに向けた活動を通しての世代間交流:1・2年生・支援級(生活科・図工)
- ☺ 「たのしいうた」(音楽科):ぽかぽかカフェでの発表を通しての世代間交流:1年生
- ☺ 「おもちゃランドへご招待」(生活科):町会の方々を招待しての世代間交流:2年生

#### □包括ゆのかわ(単独)

- ☺ 認知症サポーター養成講座・高齢者疑似体験・車いす体験:4年生 12月  
(深堀小・駒場小でも実施)

#### □各町会活動への参加・連携

- 三丁目町会による登校の見守り
- ラジオ体操会・港おどり…湯倉神社境内にて
- ☺ 自主学習のための町会館の解放…夏休み中 三丁目町会館にて
- スポーツ大会・ふれあいゲーム大会…三丁目会館等にて
- 地域合同パトロールでの下校の見守り…各町会合同で



### 教頭の関与について

- ・町会等が協力的である場合、教頭の役割において、地域の自主性を大切にし、受け身な姿勢でよいか、または、教頭から発案する等もう少し積極的な関わりをした方がよいのか、迷うところもある。
- ・地域が成熟してくると、教頭の出番が少なくなる。地域の人たちが自分たちで企画・推進していくことは良いことである。そのため教頭は「つなぎ役」になることが大事である。
- ・「つなぎ役」と言うことでは、地域と教職員とをスムーズにつなげることも考えたい。
- ・地域の思い（活動）を授業の時間帯に盛り込み、学習活動へと発展させる方法がある。

その他の各校の取組について

- ・ 緊急見守りネットワークを立ち上げた。その際、主幹教諭が各町会に行き、つながりをもつことができた。また、郵便局からも自主的な参画もあり広がりが見られてきた。
- ・ CSによる活動が既に完成されている。中心になっているメンバーも力と熱意があり、すべてを任すことができ、良い模範となる例であろう。
- ・ 地域コーディネーターがPTA、町会、他協会、学校をつなぎ、イベントを開催することができた。

課題解決に向けて

- ・ 会議のもち方について



**令和6年度北海道公立学校教頭会 第3ブロック研修会**  
**「組織・運営に関する課題」**

**未来を切り拓く豊かな人間性と創造性を育む**  
**活力ある学校づくりの推進**

～活力ある学校をつくる「組織・運営」における教頭の関与の在り方～

**函館市小学校教頭会**

**2024.11.1（金）函館市民会館小ホール**